

平成 29 年度 総合科学コース 1 年 特別講義

「コウノトリから学ぶ生態系の仕組み」

兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員 三橋 弘宗 先生

2月8日（木）6・7時間目

今回の特別講義では、県鳥であるコウノトリを題材に生態系の仕組みについて教えていただきました。なぜ豊岡市にコウノトリが息しているのか、コウノトリのエサの取り方や、豊岡の地形の特徴などから丁寧に説明していただきました。また、湿地やビオトープづくりなど、環境保全への取り組みについて教えていただきました。生態系に関する知識は生物学者だけでなく様々な職業で必要なことや、生態系の保全には土木工学やコンピュータの知識も必要なことを知り、生徒達の進路選択の一助にもなりました。生物の教科書で学ぶ生態系の仕組みをより身近なものに感じることができ、大変有意義な時間となりました。

<生徒の感想より>

- コウノトリがどんくさくて、狙いを定めて獲物を捕ることができないと知って驚いた。他の大きな鳥の印象とは異なり、少し鳥らしくないと思った。
- コウノトリの保護は、生物に関する人達がやっていると思っていたが、工学系の人達もたくさん関わっていることを知り、繋がりがあんだなと実感した。「全ての職業に生物学が関わってくる」という言葉が印象に残った。
- 意外と身近な自然で絶滅危惧種がいるので、自分たちも環境の保全に努めたいと思う。自分たちにできることは何かあるのか、考えていきたい。
- 魚道を見たことがあり、何で川に階段があるのか不思議に思っていたけれど、今日やっと意味がわかり、考えた人はすごいと思った。



銀行員も生態系に関する知識が必要です。
なぜでしょうか？



コウノトリは、季節と場所でエサを使い分けるので、さまざまな場所が必要です。